



生涯学習に関する世論調査（平成24年7月） （内閣府大臣官房政府広報室）の概要

- 調査対象 全国20歳以上の日本国籍を有する者 3,000人
有効回収数 1,956人（回収率65.2%）
調査期間 平成24年7月5日～7月15日（調査員による個別面接聴取）
- 調査目的 生涯学習に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする。
- 調査項目 1 生涯学習の現状
2 生涯学習の今後の意向
3 生涯学習の振興方策
- 調査実績 「生涯学習に関する世論調査」
平成20年5月（標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 1,837人）
平成17年5月（標本数 全国15歳以上 5,000人 有効回収数 3,489人）
平成11年12月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,448人）
平成4年2月（標本数 全国20歳以上 3,000人 有効回収数 2,191人）
昭和63年9月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 3,863人）
「生涯教育に関する世論調査」
昭和54年2月（標本数 全国20歳以上 5,000人 有効回収数 4,012人）
- その他 本調査の概要は、内閣府ホームページに掲載されています。
<http://www8.cao.go.jp/survey/h24/h24-gakushu/index.html>

<担当>
生涯学習政策局生涯学習推進課
課長 平林 正吉（内線 3456）
課長補佐 高井 絢（内線 2989）
電話：03-5253-4111（代表） 03-6734-3273（直通）

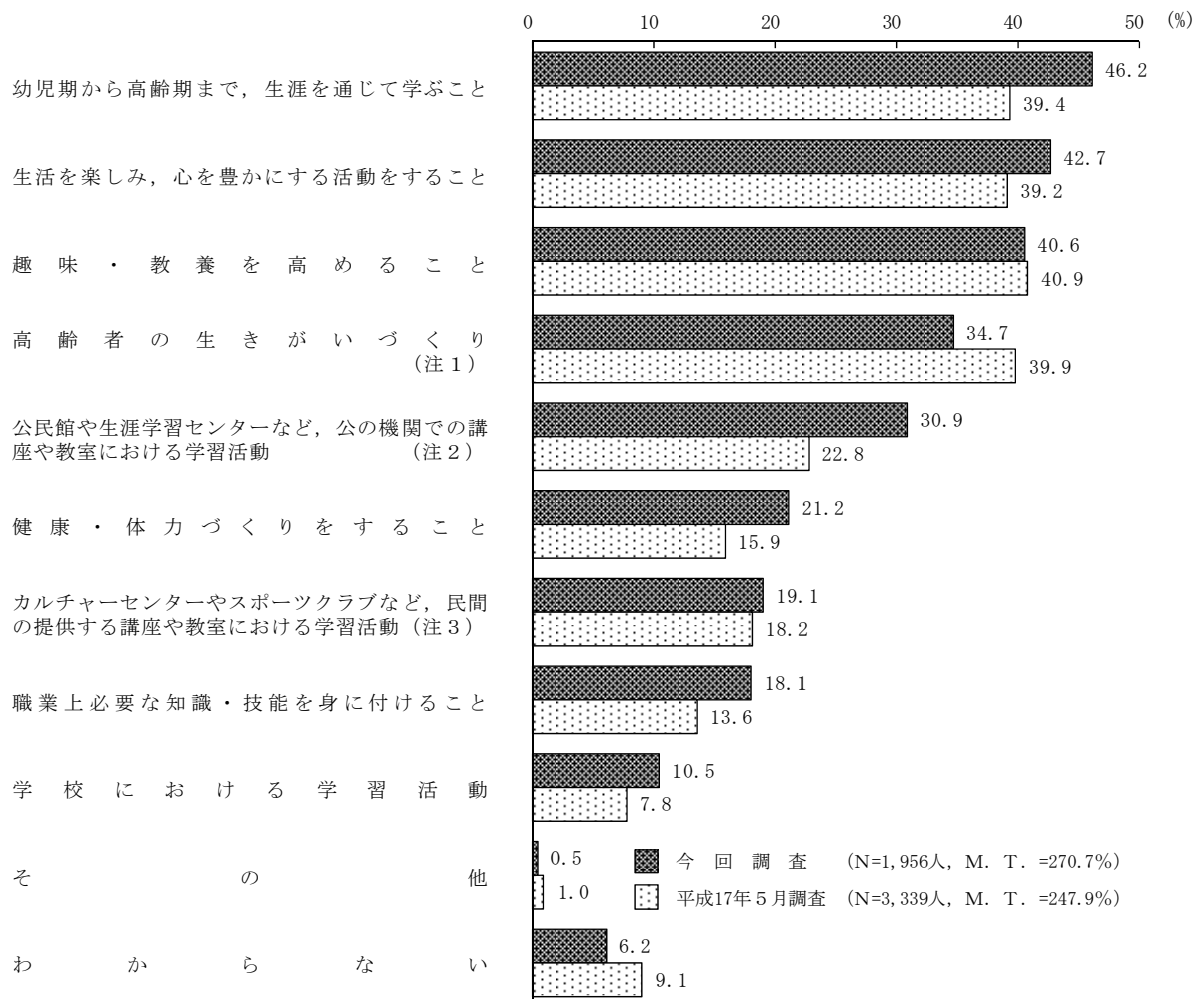
1 生涯学習の現状

(1) 「生涯学習」という言葉のイメージ

(複数回答, 上位4項目)

	平成17年5月		平成24年7月
・ 幼児期から高齢期まで, 生涯を通じて学ぶこと	39.4%	→	46.2% (増)
・ 生活を楽しみ, 心を豊かにする活動をする	39.2%	→	42.7% (増)
・ 趣味・教養を高めること	40.9%	→	40.6%
・ 高齢者の生きがいづくり	39.9%	→	34.7% (減)

(複数回答)



(注1) 平成17年5月調査では, 「高齢者の生きがいを充実すること」となっている。

(注2) 平成17年5月調査では, 「公民館など自治体の講座や教室における学習活動」となっている。

(注3) 平成17年5月調査では, 「カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室における学習活動」となっている。

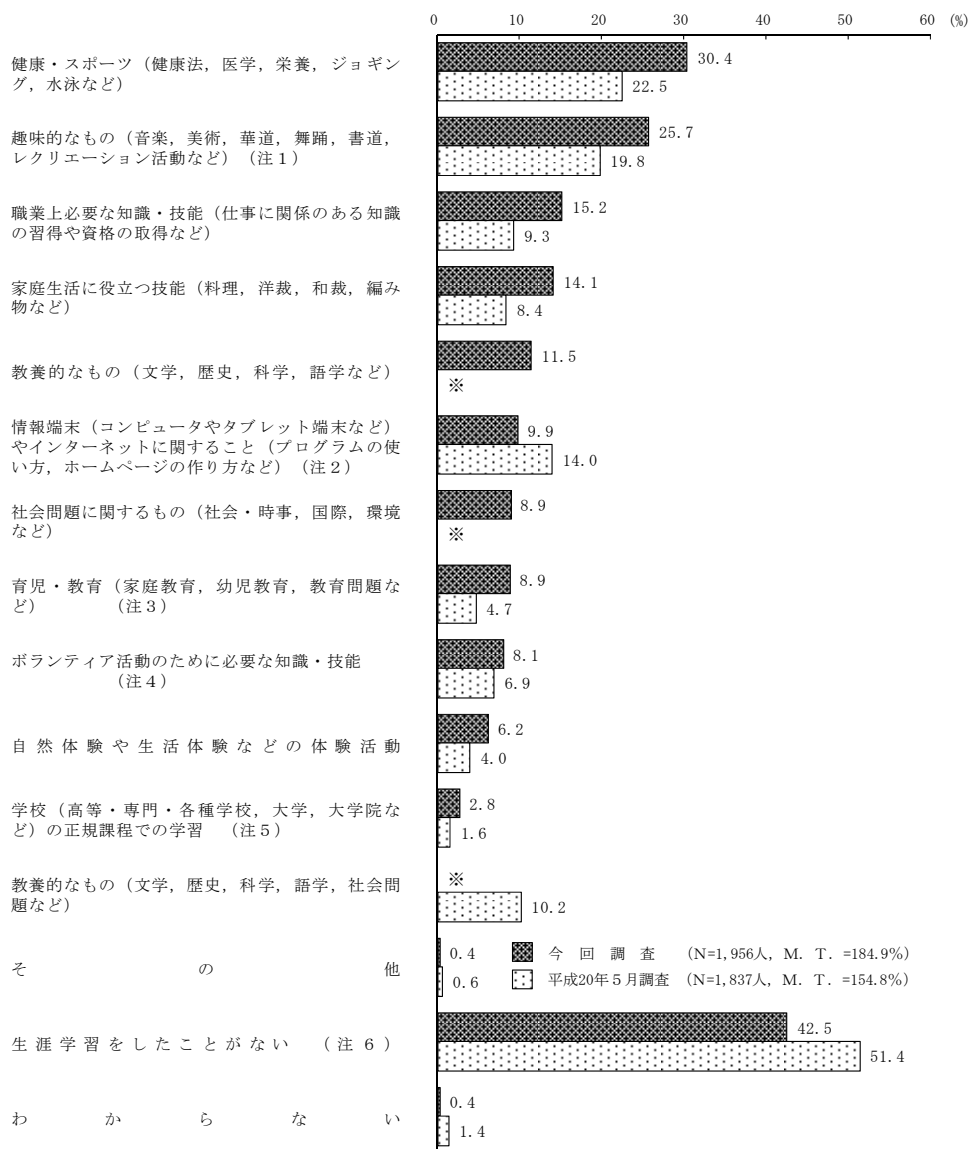
注) 今回調査と比較するため, 平成17年5月調査結果(全国15歳以上の者, 5,000人対象, 有効回収数3,489人)のうち, 全国20歳以上(3,339人)の数値を使用している。

(2) この1年間の生涯学習の実施状況

(複数回答, 上位4項目)

	平成20年5月	平成24年7月
・生涯学習をしたことがある (小計)	47.2%	57.1% (増)
・健康・スポーツ (健康法, 医学, 栄養, ジョギング, 水泳など)	22.5%	30.4% (増)
・趣味的なもの (音楽, 美術, 華道, 舞踊, 書道, レクリエーション活動など)	19.8%	25.7% (増)
・職業上必要な知識・技能 (仕事に関係のある 知識の習得や資格の取得など)	9.3%	15.2% (増)
・家庭生活に役立つ技能 (料理, 洋裁, 和裁, 編み物など)	8.4%	14.1% (増)
・生涯学習をしたことがない	51.4%	42.5% (減)

(複数回答)



(注1) 平成20年5月調査では, 「趣味的なもの (音楽, 美術, 華道, 舞踊, 書道など)」となっている。

(注2) 平成20年5月調査では, 「パソコン・インターネットに関すること」となっている。

(注3) 平成20年5月調査では, 「育児・教育 (幼児教育, 教育問題など)」となっている。

(注4) 平成20年5月調査では, 「ボランティア活動やそのために必要な知識・技能」となっている。

(注5) 平成20年5月調査では, 「学校 (高等・専修・各種学校, 大学, 大学院など) の正規課程での学習」となっている。

(注6) 平成20年5月調査では, 「(この1年くらい) していない」となっている。

※調査をしていない項目

(「生涯学習をしたことがある (小計)」とする者 (1,117人) に)

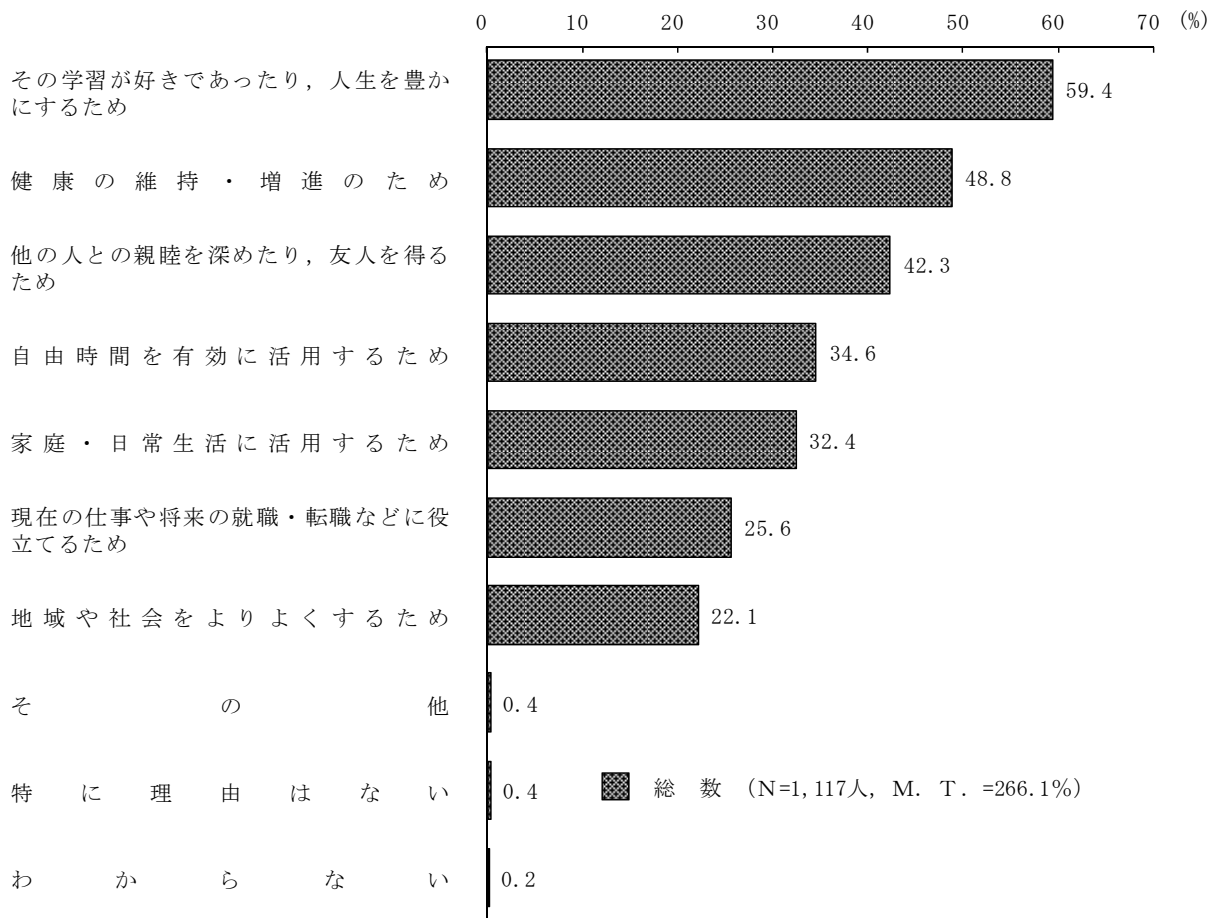
(3) 生涯学習をしている理由

(複数回答, 上位5項目)

平成 24年 7月

・その学習が好きであったり, 人生を豊かにするため	59.4%
・健康の維持・増進のため	48.8%
・他の人との親睦を深めたり, 友人を得るため	42.3%
・自由時間を有効に活用するため	34.6%
・家庭・日常生活に活用するため	32.4%

〔この1年くらいの間に「生涯学習をしたことがある (小計)」とする者に, 複数回答〕



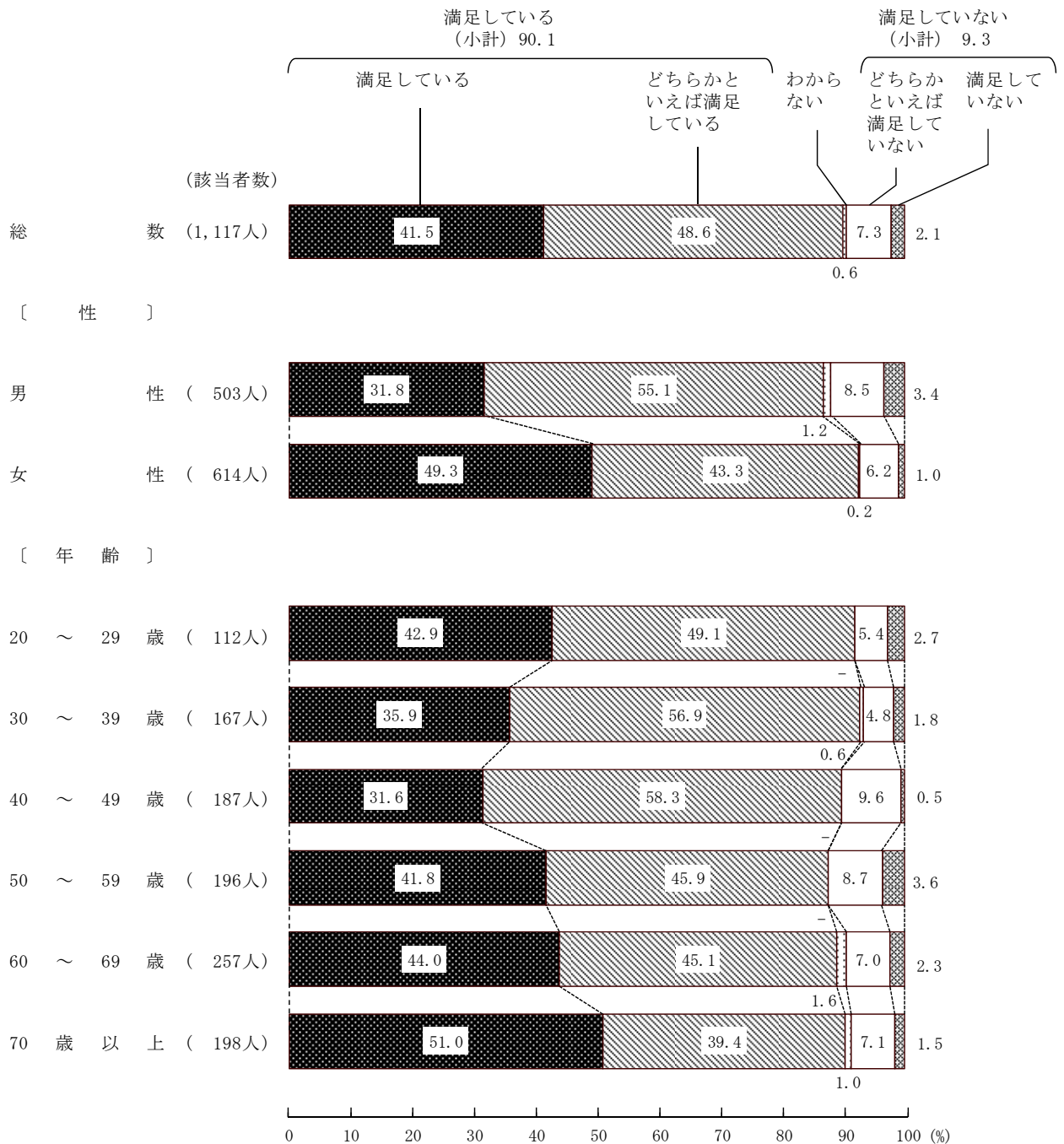
（「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者（1,117人）に）

（４）行った生涯学習の満足度

平成 24 年 7 月

・満足している（小計）	90.1%
・満足している	41.5%
・どちらかといえば満足している	48.6%
・満足していない（小計）	9.3%
・どちらかといえば満足していない	7.3%
・満足していない	2.1%

（この1年くらいの間に「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者に）



（「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者（1,117人）に）

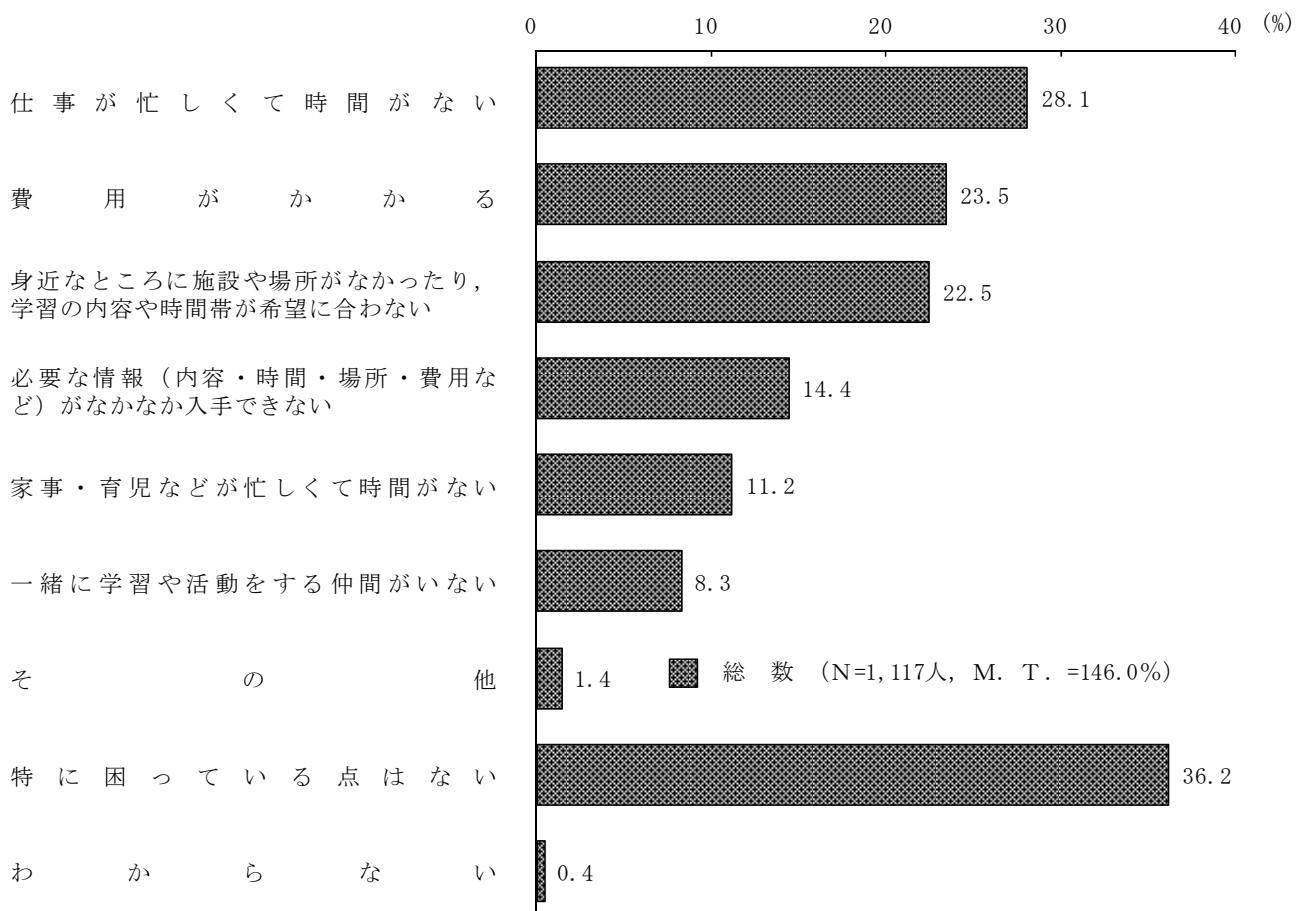
（5）生涯学習を行うにあたっての課題

（複数回答，上位4項目）

平成 24 年 7 月

・仕事が忙しくて時間がない	28.1%
・費用がかかる	23.5%
・身近なところに施設や場所がなかったり，学習の内容や時間帯が希望に合わない	22.5%
・必要な情報（内容・時間・場所・費用など）がなかなか入手できない	14.4%
・特に困っている点はない	36.2%

（この1年くらいの間に「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者に，複数回答）



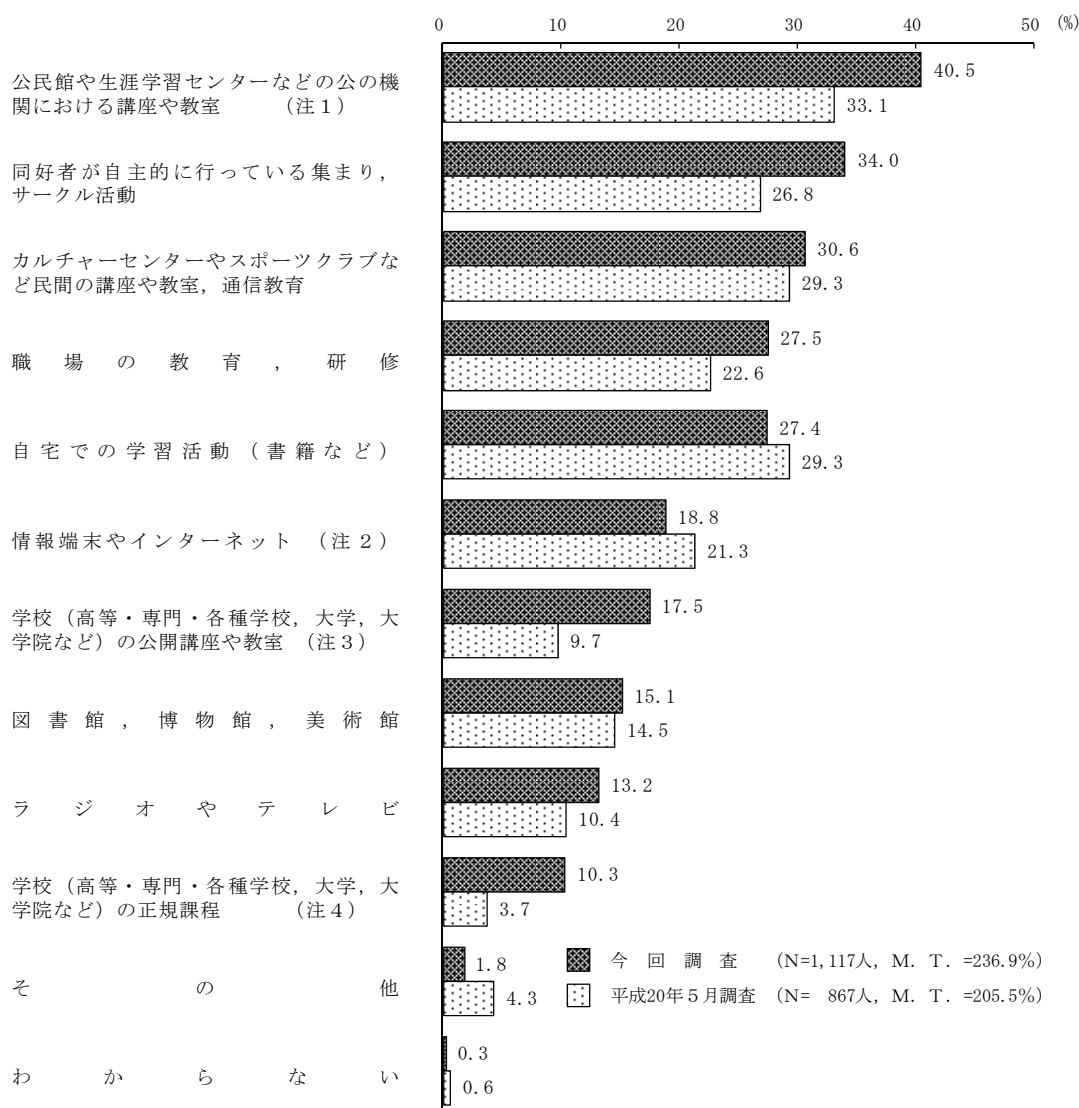
（「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者（1,117人）に）

（6）行った生涯学習の形式

（複数回答，上位5項目）

	平成20年5月	→	平成24年7月
・公民館や生涯学習センターなどの公の機関 における講座や教室	33.1%	→	40.5%（増）
・同好者が自主的に行っている集まり，サークル活動	26.8%	→	34.0%（増）
・カルチャーセンターやスポーツクラブなど 民間の講座や教室，通信教育	29.3%	→	30.6%
・職場の教育，研修	22.6%	→	27.5%（増）
・自宅での学習活動（書籍など）	29.3%	→	27.4%

〔この1年くらいの間に「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者に，複数回答〕



（注1）平成20年5月調査では，「公民館などにおける都道府県や市町村などの自治体の講座や教室」となっている。

（注2）平成20年5月調査では，「パソコンやインターネットなど（情報端末，ゲーム機器などの活用を含む）」となっている。

（注3）平成20年5月調査では，「学校（高等・専修・各種学校，大学，大学院など）の公開講座や教室」となっている。

（注4）平成20年5月調査では，「学校（高等・専修・各種学校，大学，大学院など）の正規課程」となっている。

(「生涯学習をしたことがある(小計)」とする者(1,117人)に)

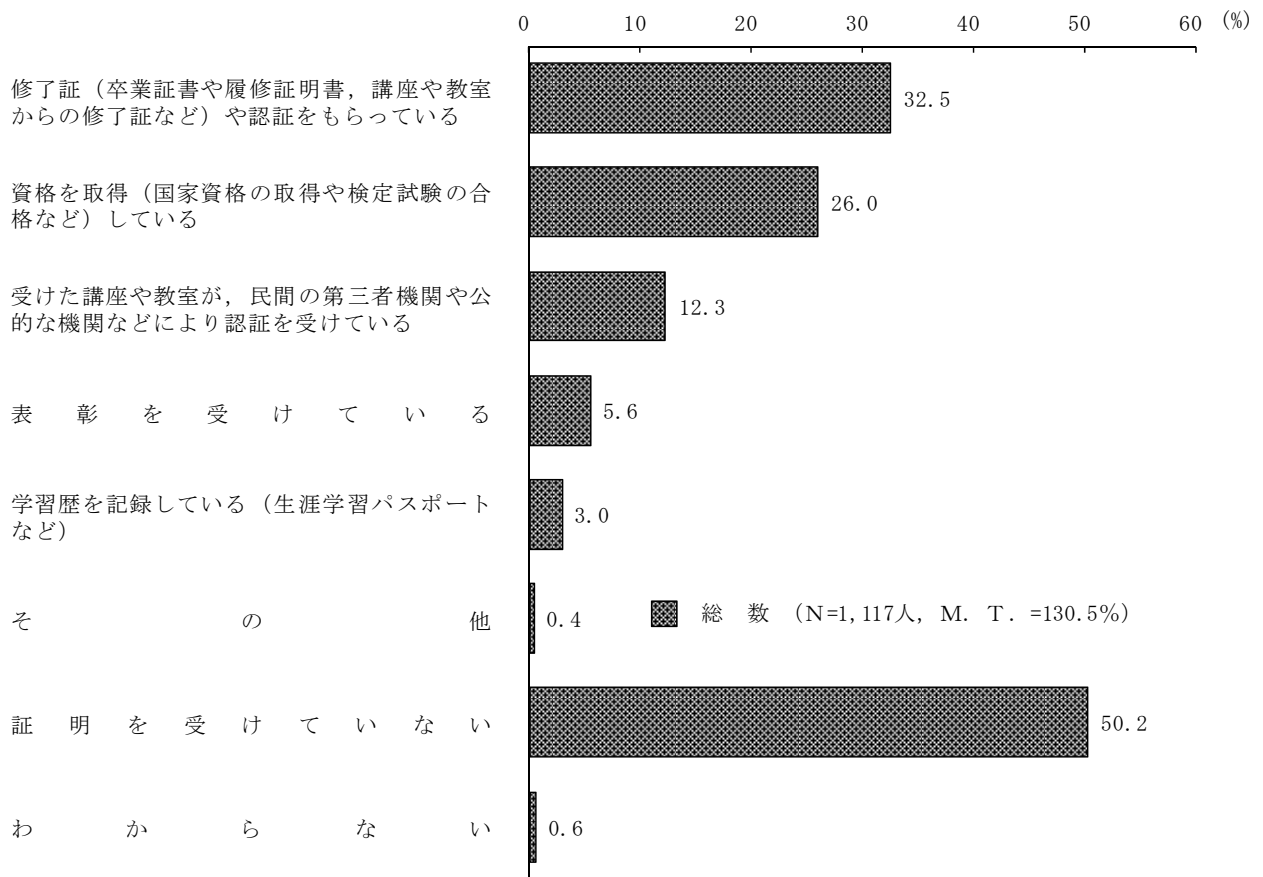
(7) 身につけた知識等が社会的評価を受けているか

(複数回答, 上位2項目)

平成24年7月

- ・ 修了証(卒業証書や履修証明書, 講座や教室からの修了証など)や認証をもらっている 32.5%
- ・ 資格を取得(国家資格の取得や検定試験の合格など)している 26.0%
- ・ 証明を受けていない 50.2%

〔この1年くらいの間に「生涯学習をしたことがある(小計)」とする者に, 複数回答〕



（「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者（1,117人）に）

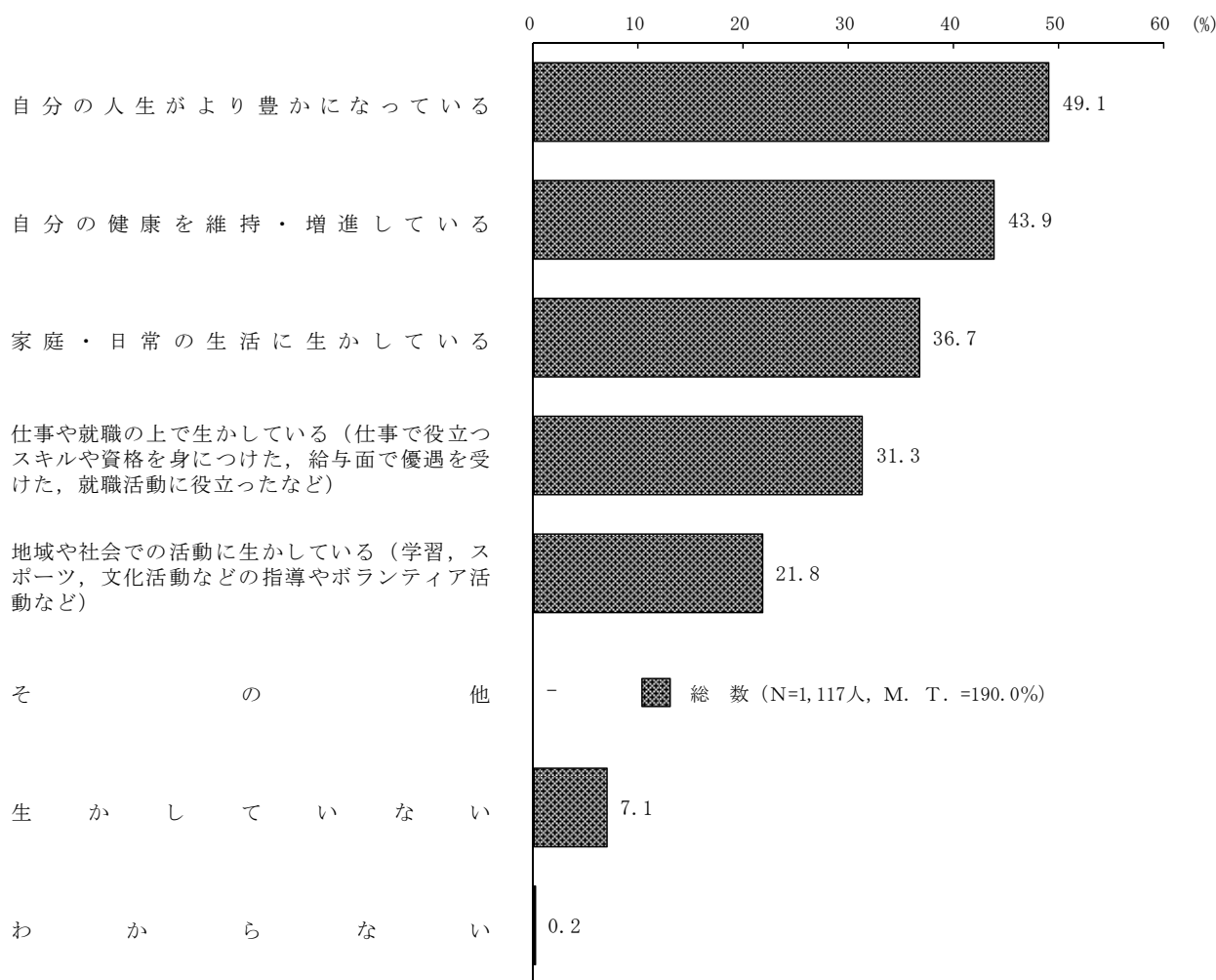
（8）身につけた知識等の活用状況

（複数回答，上位4項目）

平成24年7月

- ・自分の人生がより豊かになっている 49.1%
- ・自分の健康を維持・増進している 43.9%
- ・家庭・日常の生活に生かしている 36.7%
- ・仕事や就職の上で生かしている（仕事で役立つスキルや資格を身につけた，給与面で優遇を受けた，就職活動に役立ったなど） 31.3%

〔この1年くらいの間に「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者に，複数回答〕



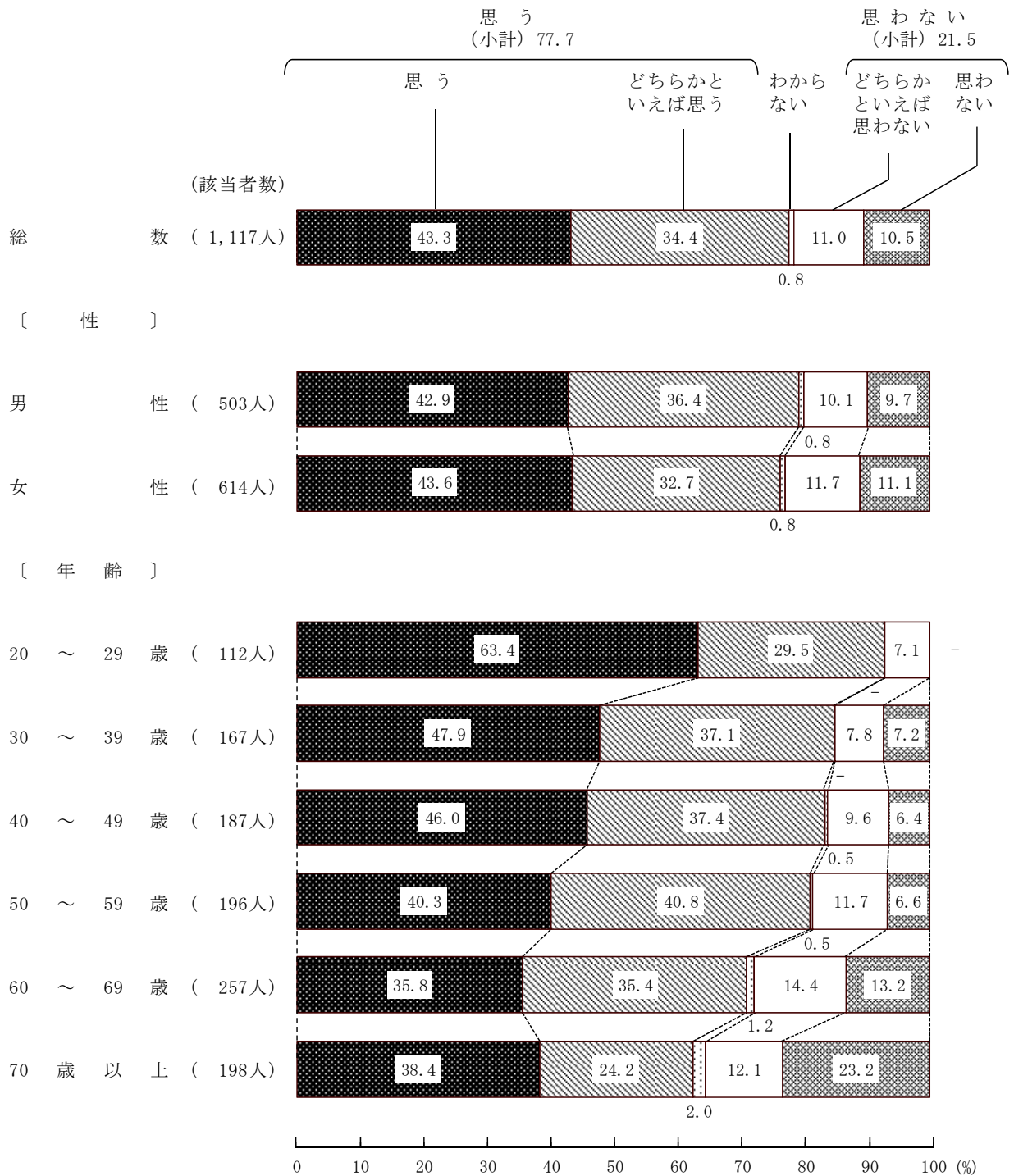
（「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者（1,117人）に）

（9）身につけた知識等の仕事や地域活動への活用の意向

平成 24 年 7 月

・思う（小計）	77.7%
・思う	43.3%
・どちらかといえば思う	34.4%
・思わない（小計）	21.5%
・どちらかといえば思わない	11.0%
・思わない	10.5%

（この1年くらいの間に「生涯学習をしたことがある（小計）」とする者に）



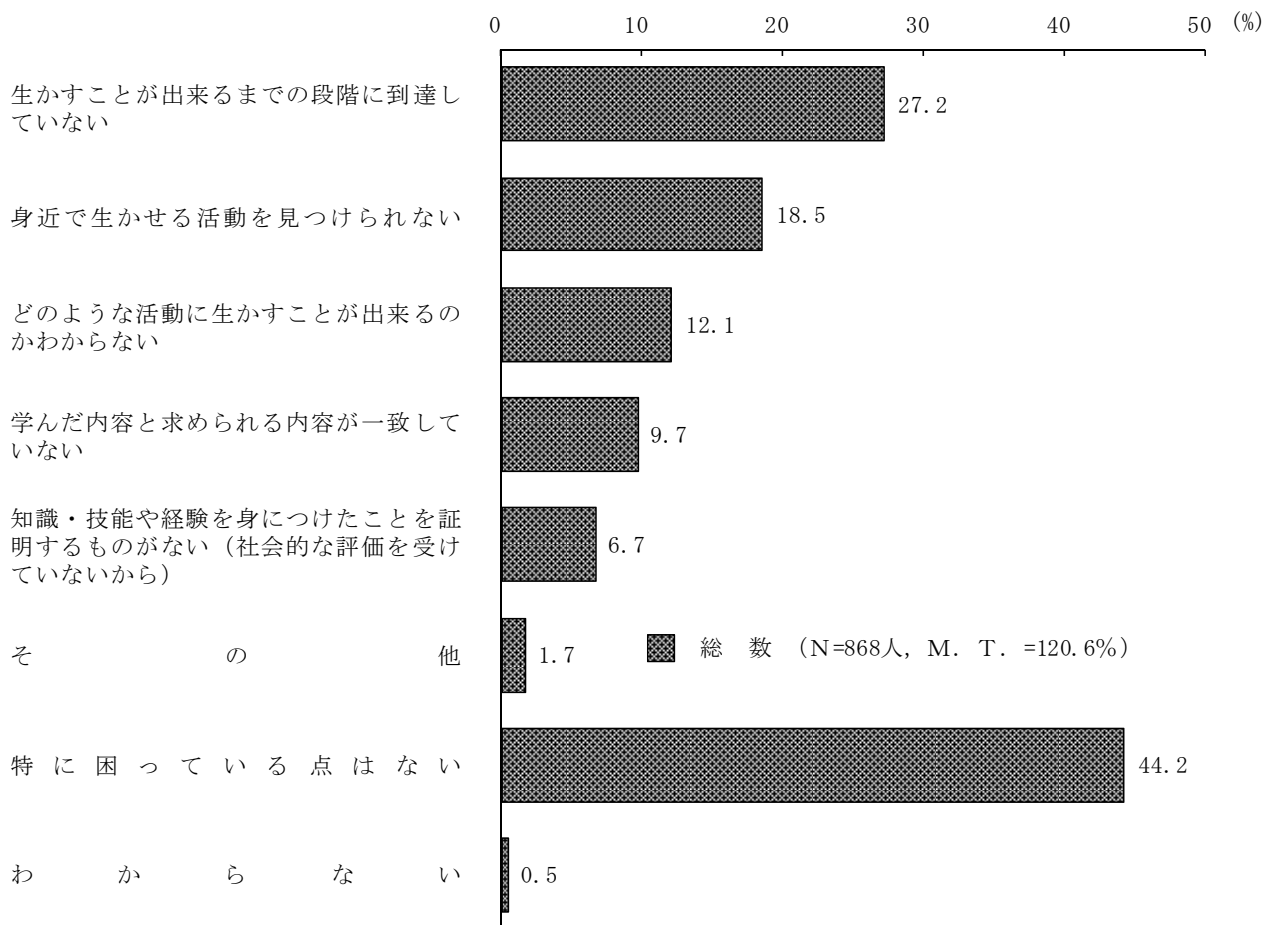
(「思う」, 「どちらかといえば思う」と答えた者 (868 人) に)

(10) 身につけた知識等を仕事や地域活動に生かすにあたっての課題 (複数回答, 上位 2 項目)

平成 24 年 7 月

- ・生かすことが出来るまでの段階に到達していない 27.2%
- ・身近で生かせる活動を見つけられない 18.5%
- ・特に困っている点はない 44.2%

この 1 年くらいの間に「生涯学習をしたことがある (小計)」とする者で、生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、仕事や地域活動に生かしたいと「思う」, 「どちらかといえば思う」と答えた者に、複数回答



(「生涯学習をしたことがない」と答えた者(832人)に)

(11) 生涯学習をしていない理由

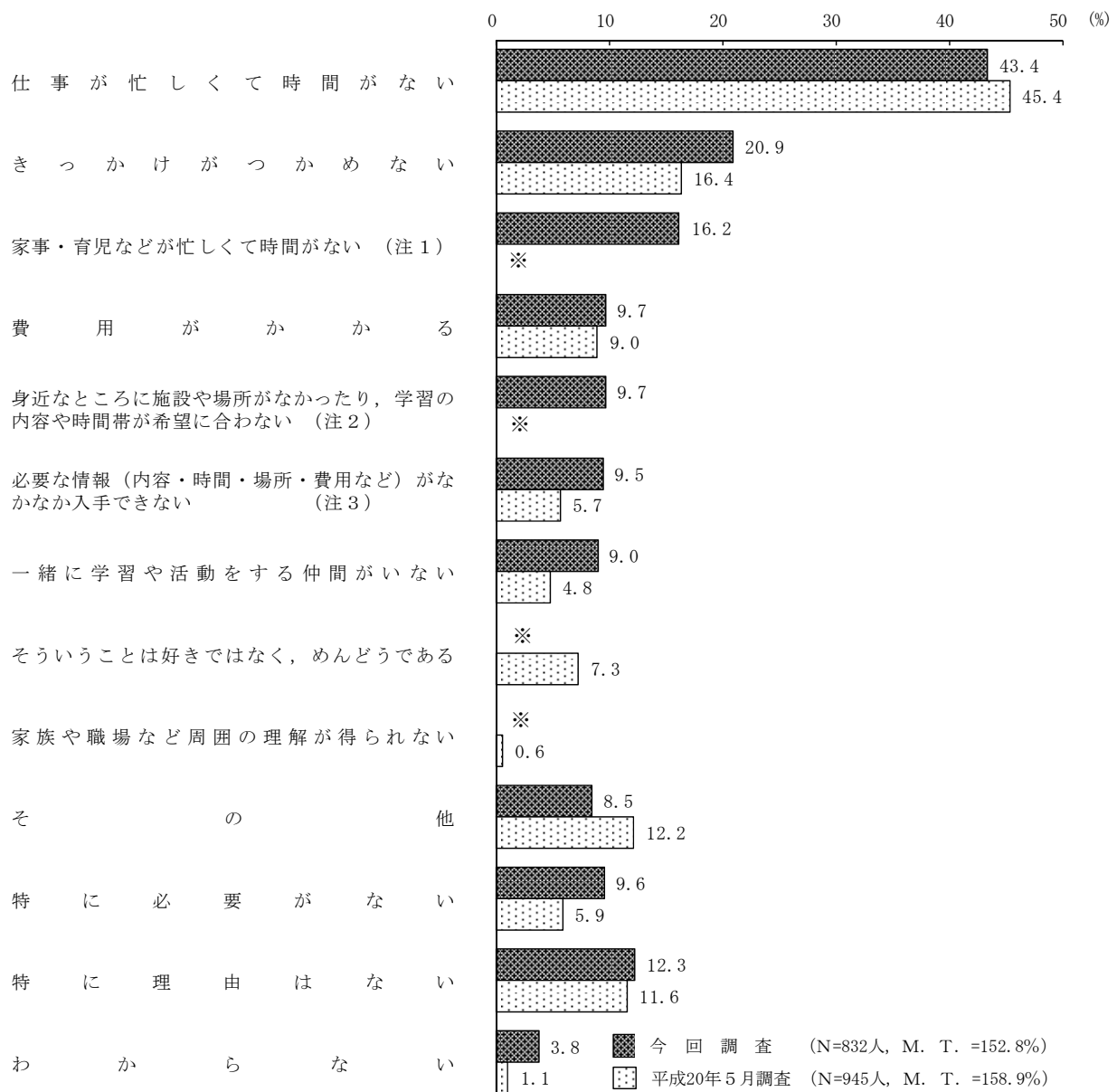
(複数回答, 上位2項目)

平成20年5月

平成24年7月

・仕事が忙しくて時間がない	45.4%	→	43.4%
・きっかけがつかめない	16.4%	→	20.9% (増)
・特に理由はない	11.6%	→	12.3%

〔この1年くらいの間に「生涯学習をしたことがない」と答えた者に、複数回答〕



(注1) 平成20年5月調査では、「家事が忙しくて時間がない」が18.9%、「子どもや親などの世話をしてくれる人がいない」が8.0%となっている。

(注2) 平成20年5月調査では、「身近なところに施設や場所がない」が6.3%、「講座や教室などが、自分の希望や実施時期・時間に合わない」が5.6%となっている。

(注3) 平成20年5月調査では、「必要な情報(内容・時間・場所・費用)がなかなか入手できない」となっている。

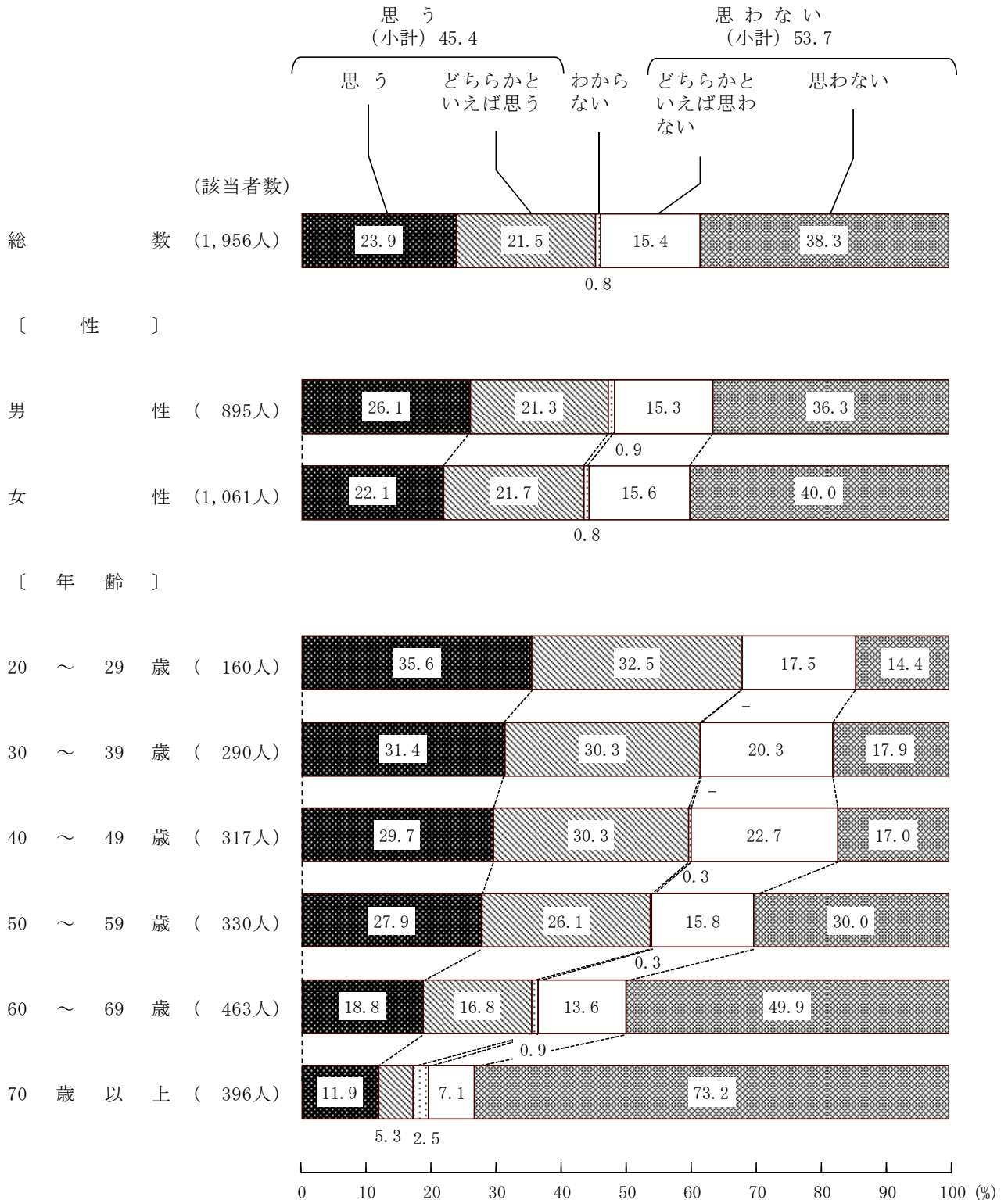
※調査をしていない項目

2 生涯学習の今後の意向

(1) ICTによる生涯学習の意向

平成 24 年 7 月

- ・ 思う (小計) 45.4%
- ・ 思う 23.9%
- ・ どちらかといえば思う 21.5%
- ・ 思わない (小計) 53.7%
- ・ どちらかといえば思わない 15.4%
- ・ 思わない 38.3%



(「思う」, 「どちらかといえば思う」と答えた者 (889人) に)

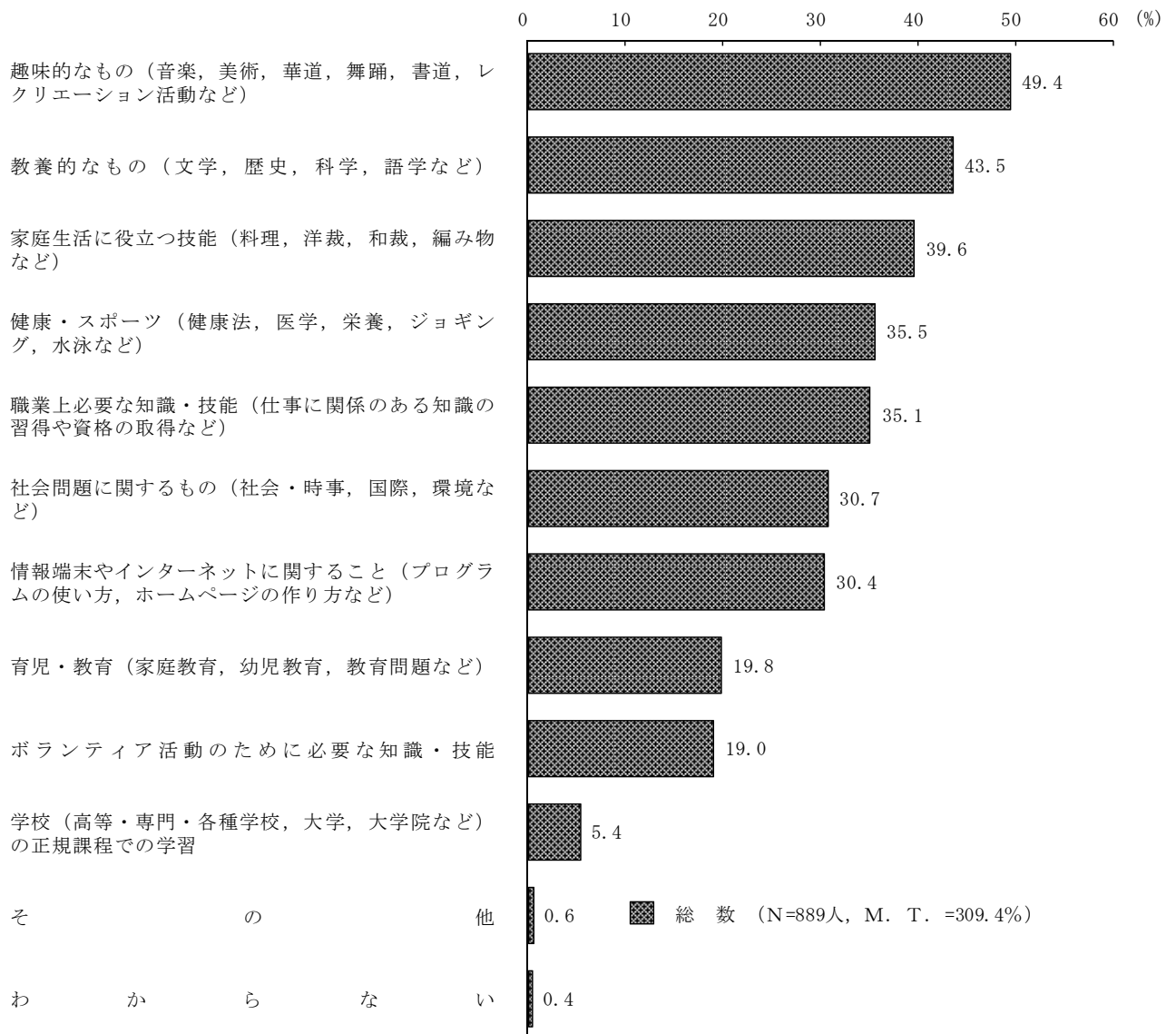
(2) ICTによって行いたい生涯学習の内容

(複数回答, 上位7項目)

平成24年7月

・ 趣味的なもの (音楽, 美術, 華道, 舞踊, 書道, レクリエーション活動など)	49.4%
・ 教養的なもの (文学, 歴史, 科学, 語学など)	43.5%
・ 家庭生活に役立つ技能 (料理, 洋裁, 和裁, 編み物など)	39.6%
・ 健康・スポーツ (健康法, 医学, 栄養, ジョギング, 水泳など)	35.5%
・ 職業上必要な知識・技能 (仕事に関係のある知識の習得や資格の取得など)	35.1%
・ 社会問題に関するもの (社会・時事, 国際, 環境など)	30.7%
・ 情報端末やインターネットに関すること (プログラムの使い方, ホームページの作り方など)	30.4%

(情報端末やインターネットを使った生涯学習をしたいと「思う」, 「どちらかといえば思う」と答えた者に, 複数回答)



(3) ICTによる生涯学習を行うにあたっての課題

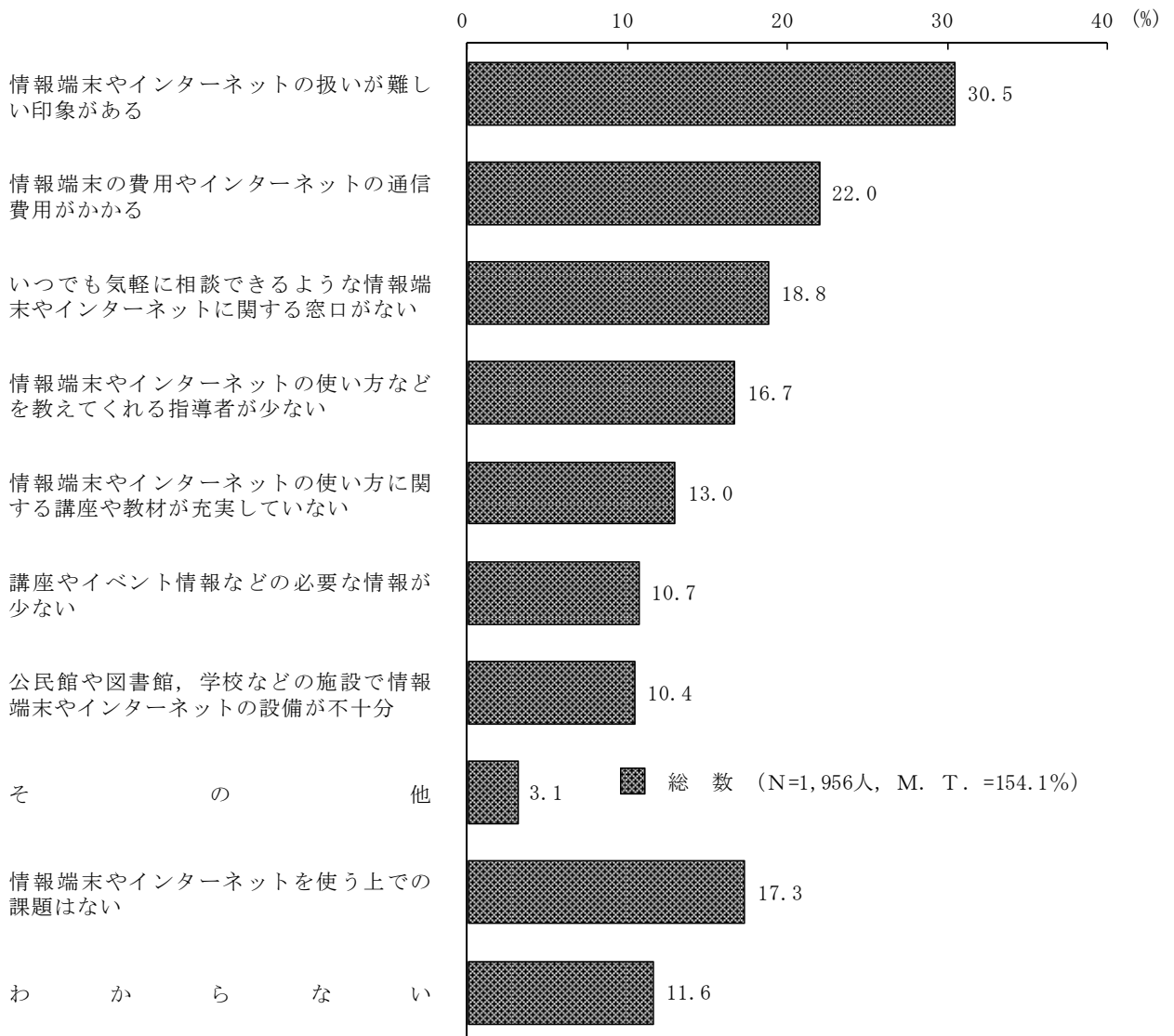
(複数回答, 上位4項目)

平成24年7月

- ・情報端末やインターネットの扱いが難しい印象がある 30.5%
- ・情報端末の費用やインターネットの通信費用がかかる 22.0%
- ・いつでも気軽に相談できるような情報端末やインターネットに関する窓口がない 18.8%
- ・情報端末やインターネットの使い方などを教えてくれる指導者が少ない 16.7%

- ・情報端末やインターネットを使う上での課題はない 17.3%
- ・わからない 11.6%

(複数回答)



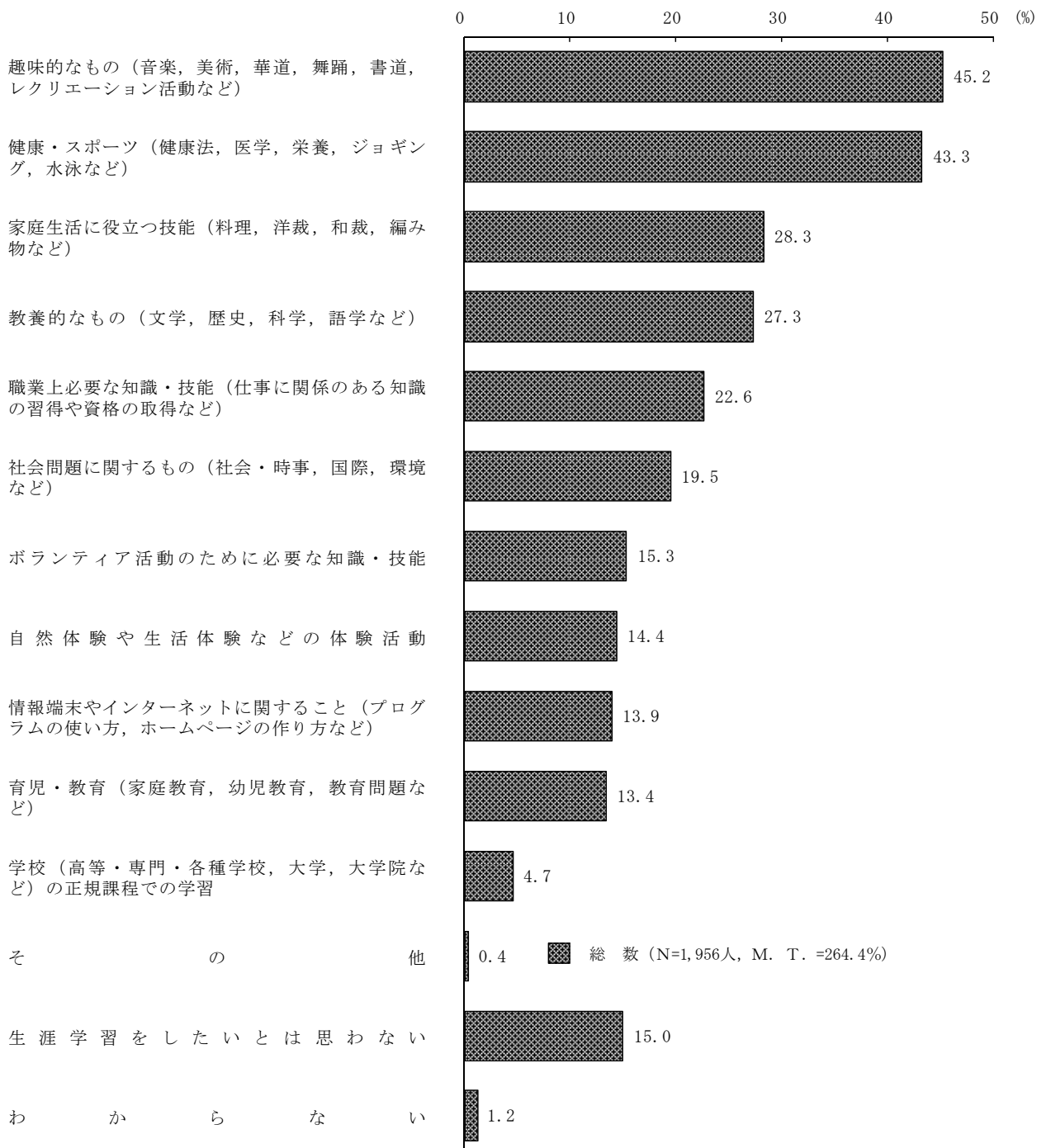
(4) 行いたい生涯学習の内容

(複数回答, 上位4項目)

平成24年7月

・生涯学習をしたいと思う (小計)	83.8%
・趣味的なもの (音楽, 美術, 華道, 舞踊, 書道, レクリエーション活動など)	45.2%
・健康・スポーツ (健康法, 医学, 栄養, ジョギング, 水泳など)	43.3%
・家庭生活に役立つ技能 (料理, 洋裁, 和裁, 編み物など)	28.3%
・教養的なもの (文学, 歴史, 科学, 語学など)	27.3%
・生涯学習をしたいとは思わない	15.0%

(複数回答)



(「生涯学習をしたいと思う(小計)」とする者(1,639人)に)

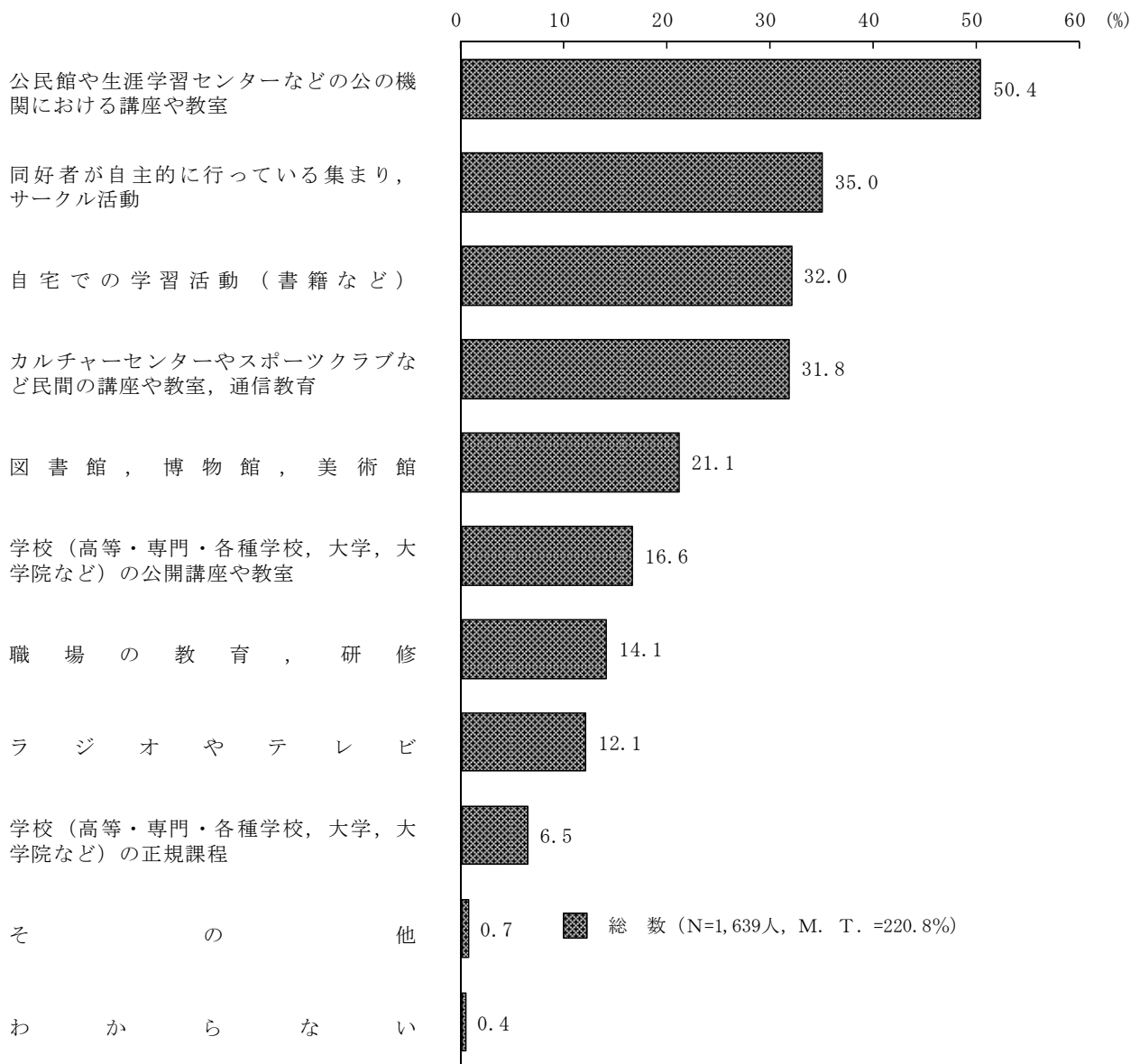
(5) 行いたい生涯学習の形式

(複数回答, 上位4項目)

平成24年7月

- ・ 公民館や生涯学習センターなどの公の機関における講座や教室 50.4%
- ・ 同好者が自主的に行っている集まり, サークル活動 35.0%
- ・ 自宅での学習活動(書籍など) 32.0%
- ・ カルチャーセンターやスポーツクラブなど民間の講座や教室, 通信教育 31.8%

(「生涯学習をしたいと思う(小計)」とする者に, 複数回答)



（「生涯学習をしたいと思う（小計）」とした者（1,639人）に）

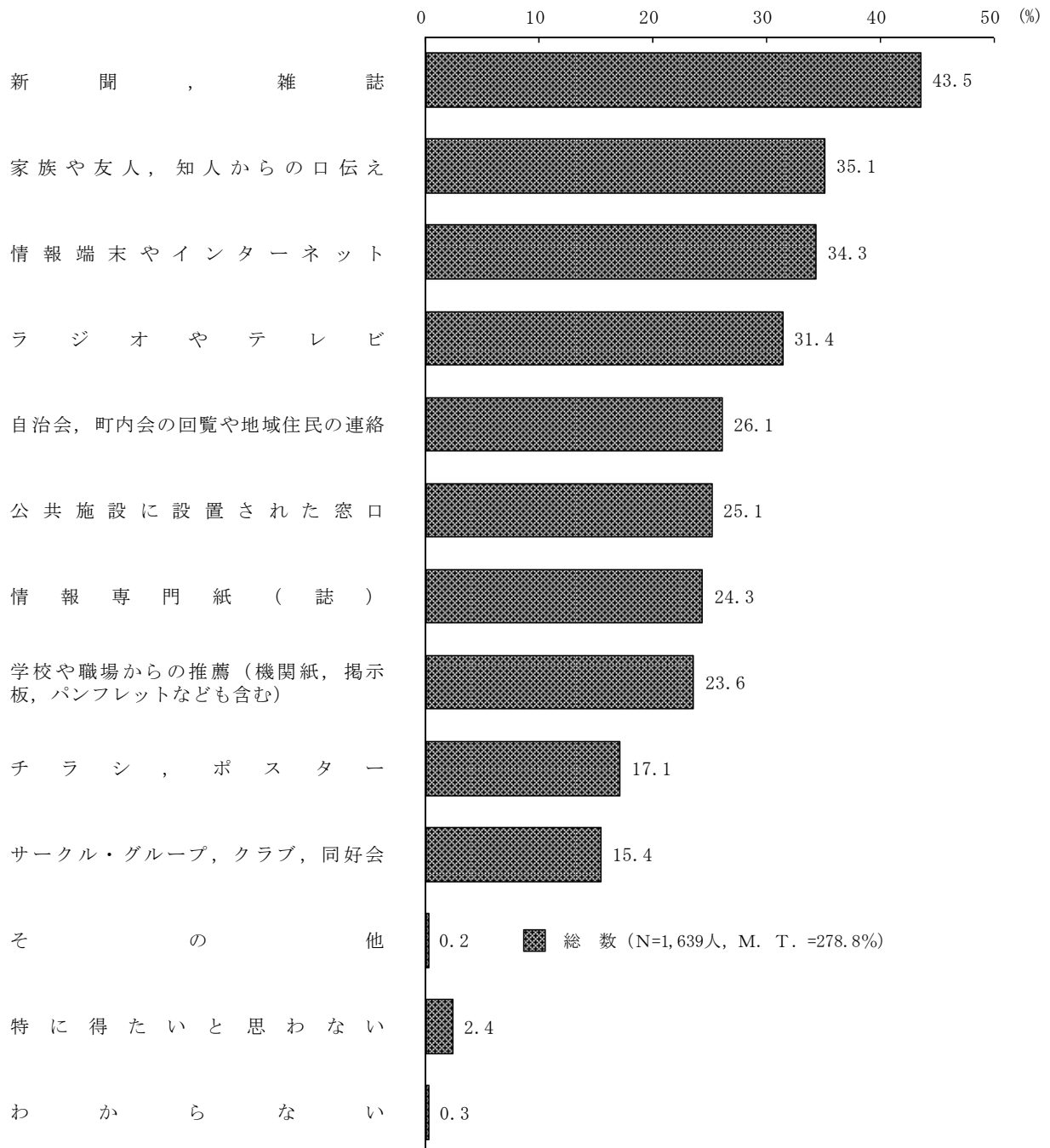
（6）生涯学習の情報をどこから得たいと思うか

（複数回答，上位4項目）

平成24年7月

・新聞，雑誌	43.5%
・家族や友人，知人からの口伝え	35.1%
・情報端末やインターネット	34.3%
・ラジオやテレビ	31.4%

（「生涯学習をしたいと思う（小計）」とする者に，複数回答）



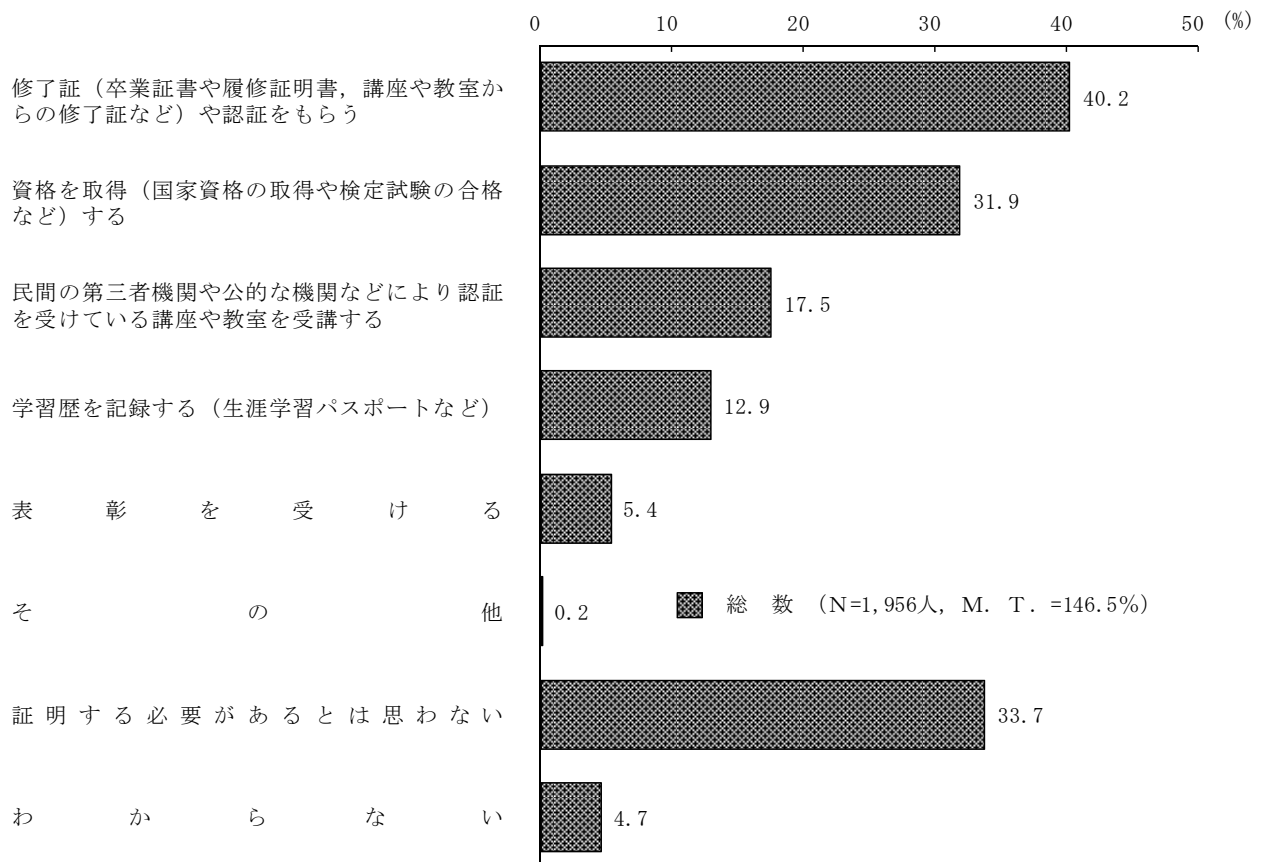
(7) 身につけた知識等についての社会的評価の方法

(複数回答, 上位4項目)

平成24年7月

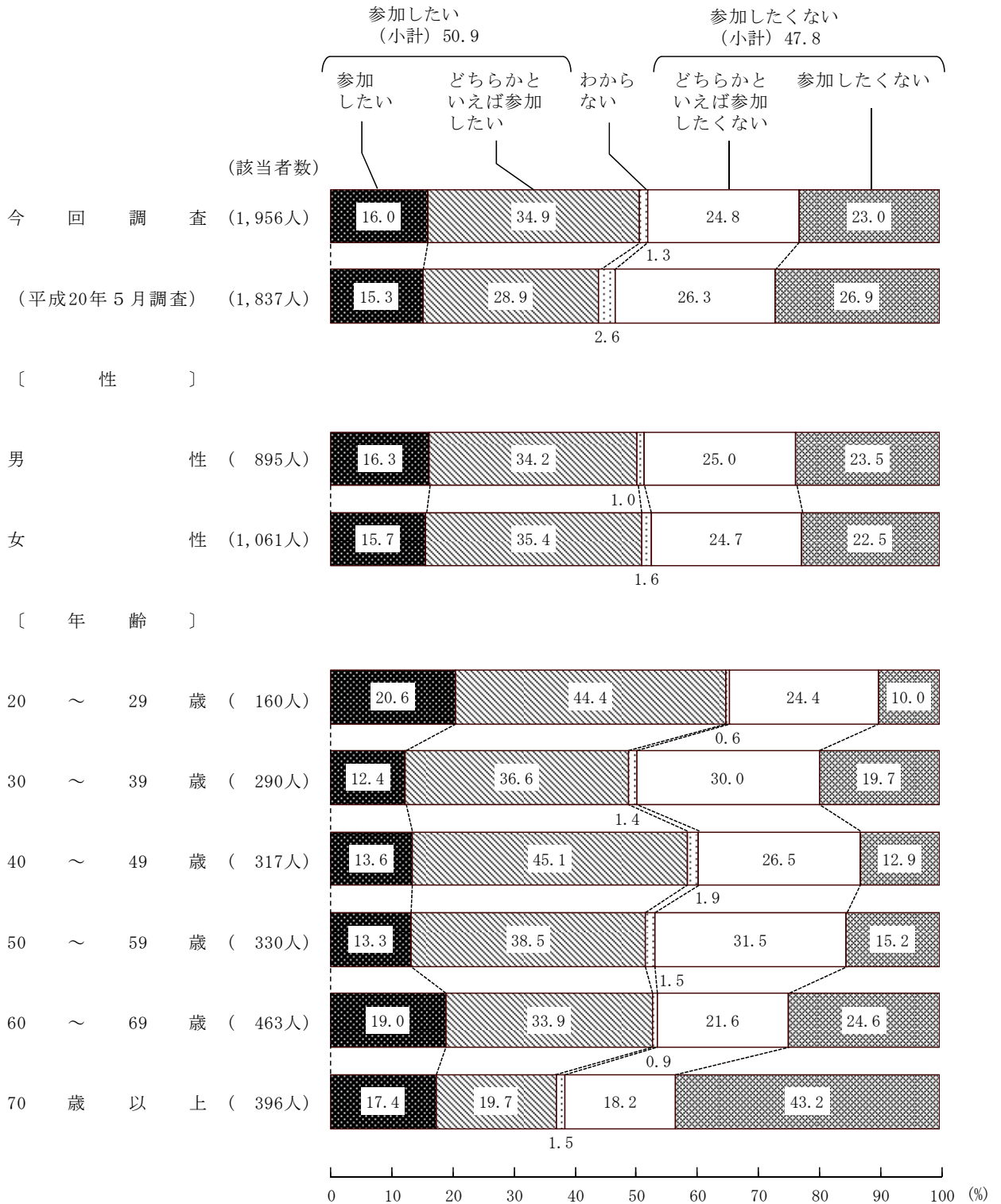
- ・ 修了証 (卒業証書や履修証明書, 講座や教室からの修了証など) や認証をもらう 40.2%
- ・ 資格を取得 (国家資格の取得や検定試験の合格など) する 31.9%
- ・ 民間の第三者機関や公的な機関などにより認証を受けている講座や教室を受講する 17.5%
- ・ 学習歴を記録する (生涯学習パスポートなど) 12.9%
- ・ 証明する必要があるとは思わない 33.7%

(複数回答)



(8) 「地域や社会における教育」の支援や指導への参加希望

	平成 20 年 5 月	平成 24 年 7 月
・参加したい (小計)	44.2%	→ 50.9% (増)
・参加したい	15.3%	→ 16.0%
・どちらかといえ参加したい	28.9%	→ 34.9% (増)
・参加したくない	53.2%	→ 47.8% (減)
・どちらかといえ参加したくない	26.3%	→ 24.8%
・参加したくない	26.9%	→ 23.0% (減)

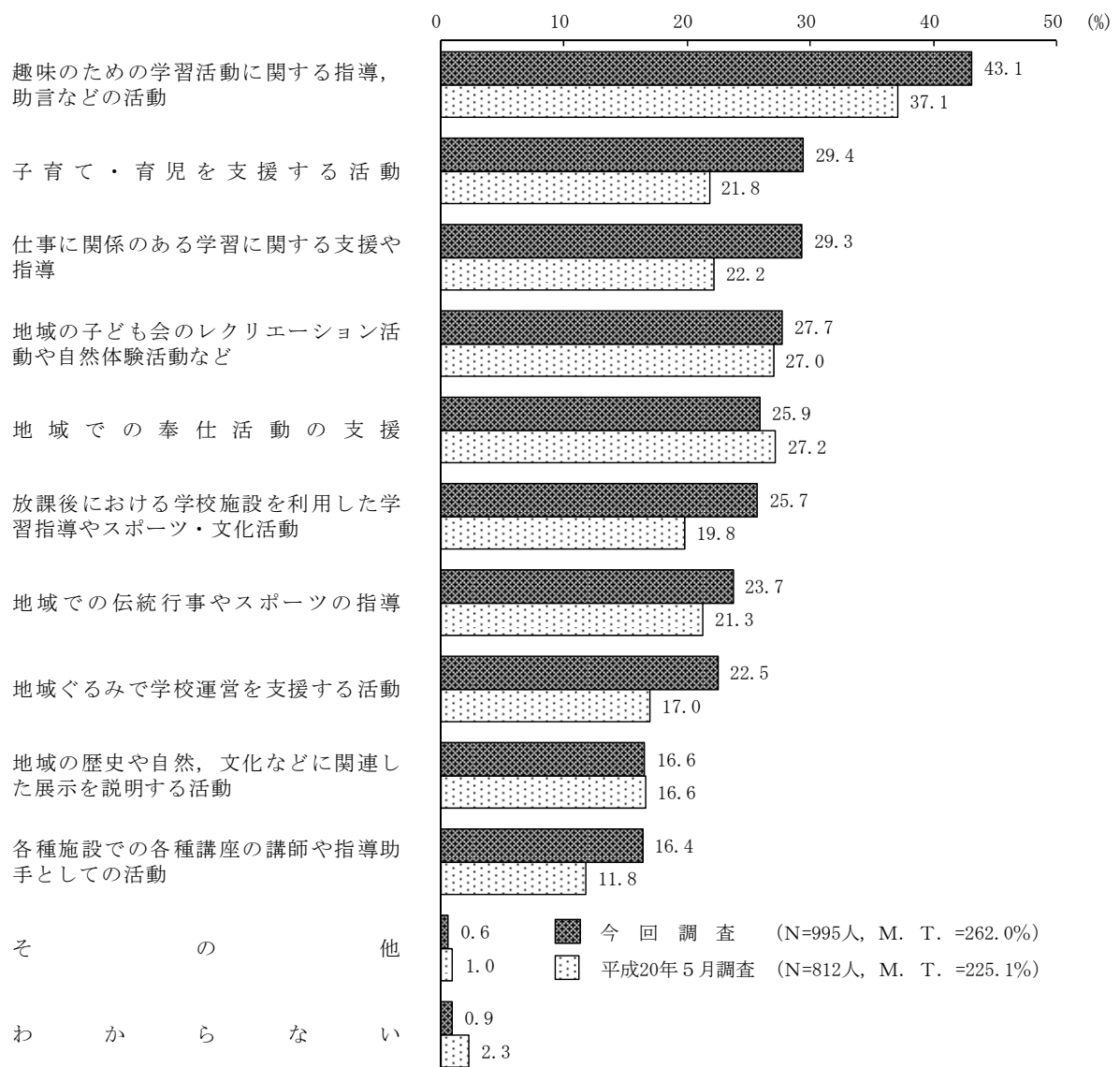


(「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」と答えた者(995人)に)

(9) 参加したい「地域や社会における教育」の支援や指導 (複数回答, 上位8項目)

	平成20年5月	平成24年7月
・趣味のための学習活動に関する指導, 助言などの活動	37.1%	→ 43.1% (増)
・子育て・育児を支援する活動	21.8%	→ 29.4% (増)
・仕事に関係のある学習に関する支援や指導	22.2%	→ 29.3% (増)
・地域の子ども会のレクリエーション活動や事前体験活動など	27.0%	→ 27.7%
・趣味のための学習活動に関する指導, 助言などの活動	27.2%	→ 25.9%
・放課後における学校施設を利用した学習指導やスポーツ・文化活動	19.8%	→ 25.7% (増)
・地域での伝統行事やスポーツの指導	21.3%	→ 23.7%
・地域ぐるみで学校運営を支援する活動	17.0%	→ 22.5% (増)

〔「地域や社会における教育」の支援や指導に「参加したい」、「どちらかといえば参加したい」と答えた者に, 複数回答〕



3 生涯学習の振興方策

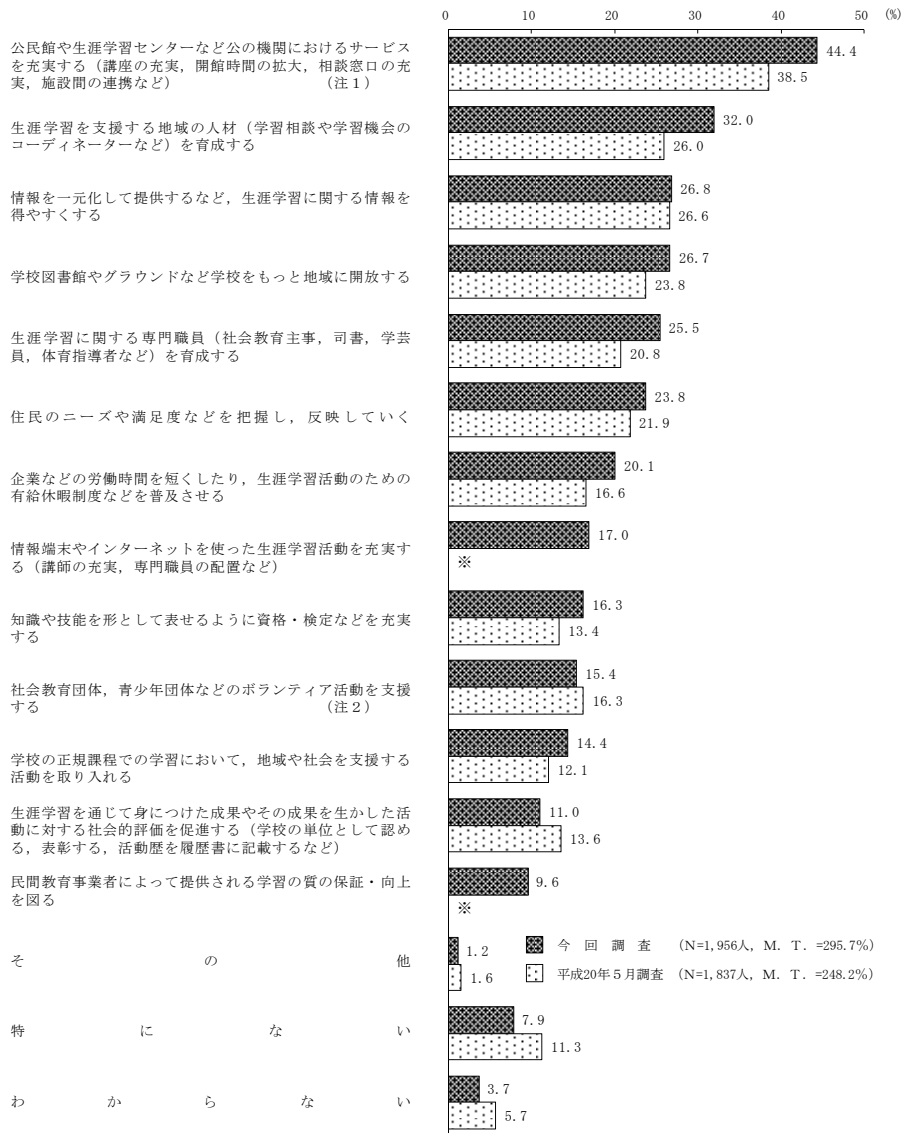
(1) 生涯学習の振興方策

(複数回答, 上位6項目)

平成20年5月 平成24年7月

・公民館や生涯学習センターなど公の機関におけるサービスを充実する(講座の充実, 開館時間の拡大, 相談窓口の充実, 施設間の連携など)	38.5%	→	44.4% (増)
・生涯学習を支援する地域の人材(学習相談や学習機会のコーディネーターなど)を育成する	26.0%	→	32.0% (増)
・情報を一元化して提供するなど, 生涯学習に関する情報を得やすくする	26.6%	→	26.8%
・学校図書館やグラウンドなど学校をもっと地域に開放する	23.8%	→	26.7% (増)
・生涯学習に関する専門職員(社会教育主事, 司書, 学芸員, 体育指導者など)を育成する	20.8%	→	25.5% (増)
・住民のニーズや満足度などを把握し, 反映していく	21.9%	→	23.8%

(複数回答)



(注1) 平成20年5月調査では, 「生涯学習関連施設などにおけるサービスを充実する(講座の充実, 開館時間の拡大, 相談窓口の充実, 施設間の連携など)」となっている。

(注2) 平成20年5月調査では, 「社会教育団体, 青少年団体などのボランティア活動を活発にさせたり, その活動を支援する」となっている。

※調査をしていない項目

生涯学習に関する世論調査（内閣府調査）

<調査目的>

生涯学習に関する国民の意識を調査し、今後の施策の参考とする

<調査対象>（個別面接聴取）

全国20歳以上の日本国籍を有する者 **3,000人**
有効回答数 **1,956人**（回収率 65.2%）

<調査時期>

平成24年7月
前回調査：平成20年5月

<調査内容>

(1) 生涯学習の現状等

- ・「生涯学習」という言葉のイメージ
- ・生涯学習の実施状況
- ・生涯学習の満足度
- ・身につけた知識等の社会的評価
- ・身につけた知識等の活用状況
- ・生涯学習をしていない理由 等

(2) 生涯学習に対する今後の意向

- ・ICTによる生涯学習の意向
- ・行いたい生涯学習の内容や形式
- ・身につけた知識等についての社会的評価の方法
- ・「地域や社会における教育」の支援や指導の意向 等

(3) 生涯学習の振興方策

- ・生涯学習の振興方策

<調査結果(例)>

生涯学習の現状等について

- この一年間に生涯学習を行った人の割合は前回調査に比較して、あらゆる年代で増加。(p3)
(平成20年度：**47.2%**→平成24年度：**57.1%**)
- この一年間に社会問題に関する学習を行った人の割合は**8.9%**なのに対し、今後実施したい人の割合は**19.5%**と高い。(p3、16)

- 形式としては、「公民館や生涯学習センターなどの公の機関における講座や教室」(**40.5%**)が最も多く、「同好者の集まり、サークル活動」(**34.0%**)と続く。前回調査と比較して「職場の教育、研修」(**27.5%**)も増加。(p7)

生涯学習や社会活動に関する機運が高まっている

中間とりまとめ関連項目

- ・現代的・社会的な課題に対応した学習の推進（先進的に取り組む公民館等に対する支援等）
- ・多様な主体が提供する学習機会の質の保証・向上の推進

生涯学習に関する世論調査（内閣府調査）

<調査結果(続き)>

生涯学習の課題について

- ◆ 生涯学習をしたことがある人
 - 生涯学習を行うにあたっての課題としては、「仕事が忙しくて時間がない」が最も多く、**28.1%**。
続いて、「費用がかかる」(**23.5%**)、「身近なところに施設や場所がない、内容や時間帯が希望に合わない」(**22.5%**)。(p6)
- ◆ 生涯学習をしていない人
 - 生涯学習をしていない理由としては、「仕事が忙しくて時間がない」が最も多く、**43.4%**。(p12)
※「仕事が忙しくて時間がない」と回答した者の割合
(20代:**42.6%**、30代:**56.1%**、40代:**63.8%**、50代:**54.5%**、60代:**40.8%**、70代:**16.7%**)

生涯学習に取り組む上での重要な課題の一つは「仕事が忙しくて時間がない」

- 一方で、ICTによる生涯学習を「したいと思う」、「どちらかといえばしたいと思う」と回答した者は、**45.4%**。(p13)
※ 仕事が忙しくて時間がない世代で、ICTによる生涯学習を「したいと思う」、「どちらかといえばしたいと思う」と回答した割合が高くなっている。

(20代:**68.1%**、30代:**61.7%**、40代:**60.0%**、50代:**54.0%**、60代:**35.6%**、70代:**17.2%**)

ICT:本調査においては「情報端末やインターネット」のことをさす。

ICTは、仕事が忙しくて時間がない世代が生涯学習に取り組む契機となり得る

中間とりまとめ関連項目

- ・学習機会の確保のための環境整備(情報通信技術(ICT)の効果的な活用や放送大学の活用等)
- ・ICTを活用した学習(eラーニング)の質の保証・向上等の推進

生涯学習に関する世論調査（内閣府調査）

<調査結果(続き)>

生涯学習の成果の活用について

- 生涯学習を通じて身につけた知識・技能を地域や社会での活動に「生かしている」と回答した人の割合は前回調査に比較して増加。(p9)
(平成20年度:17.2%→平成24年:21.8%)

- 身につけた知識等を仕事や地域活動に「生かしたいと思う」と回答した人は77.7%。(p10)

- 「地域や社会における教育」の支援や指導に「参加したいと思う」と回答した人は前回調査に比較して増加。
(平成20年度:44.2%→平成24年:50.9%)(p20)

- 参加したい内容としては、「趣味のための学習活動に関する指導、助言」(43.1%)が最も多く、「子育て、育児を支援する活動」(29.4%)、「仕事に関係のある学習に関する支援や指導」(29.3%)が続く。(p21)

生涯学習の振興方策について

- 依然として、「公の機関におけるサービスの充実」(44.4%)という回答が年代・性別を問わず最も多いが、「生涯学習を支援する地域の人材を育成する」が前回調査と比較して目立って増加
(平成20年度:26.0%→平成24年度:32.0%)。(p22)

学習の成果の活用、公の機関におけるサービスの充実や地域活動を支える人材の育成が望まれている

中間とりまとめ関連項目

- ・社会全体で子どもたちの活動を支援する取組(学校支援地域本部、放課後子ども教室等)の推進
- ・社会教育施設の運営の質の向上
- ・地域の学びを支える人材の育成・活用の推進